

特集

9月1日は防災の日



土砂災害全国統一防災訓練 (6月12日 安曇川町下古賀)

「防災の日」は、昭和34年9月26日の「伊勢湾台風」によって、戦後最大の被害を被ったことが契機となり、昭和35年6月11日に閣議了解され、毎年9月1日とすることになりました。

9月1日は、今から88年前の大正12年に「関東大震災」が起きた日であることに併せ、暦の上で二百十日にあたり、台風襲来の厄日のひとつとして恐れられる日でした。そこで、「関東大震災」の教訓を忘れず、また、台風などによる災害への備えを怠らないようにとの戒めも込めて、この日が「防災の日」として制定されました。また、昭和57年からは、9月1日を含む一週間を「防災週間」として定め、全国的に防災に関する行事や訓練などが行われています。今年3月の東日本大震災や6月・7月の各地での豪雨被害など、災害はいつ起こるか分かりません。特に地震は、世界の約10%が日本で起こっており、ほぼ毎年

過去10年間の日本で起きた主な地震

発生年	名称	規模
平成12年	鳥取県西部地震	M7.3
平成13年	芸予地震	M6.7
平成15年	十勝沖地震	M8.0
平成16年	新潟県中越地震	M6.8
平成17年	福岡県西部沖地震	M7.0
平成19年	能登半島地震	M6.9
平成19年	新潟県中越沖地震	M6.8
平成20年	茨城県沖地震	M7.0
平成20年	岩手県内陸南部地震	M7.2
平成21年	駿河湾地震	M6.5
平成22年	沖縄本島近海地震	M7.2
平成23年	東北地方太平洋沖地震	M9.0

被害をもたらしています。高島市も琵琶湖西岸断層帯地震の脅威にさらされていることから、「防災の日」にあたり今一度、災害に対する意識をさらに強くするとともに、家の耐震補強、家具の転倒防止、非常用持出品の準備・点検など、日頃の備えをもう一度確認してみましょう。

市民にとって
決して忘れられない日

皆さんは、昭和28年に安曇川で発生した大水害をご存知でしょうか？

昭和28年9月25日。大型で非常に強い台風13号が上陸し、各地で猛威をふるいました。滋賀県は台風の中心から外れたものの、総雨量が458mmを記録。安曇川は増水により随所で堤防が決壊しました。

また、朽木村では2日間通行が途絶え、完全な孤立状態に。最も被害の大きかった青柳村では、死者13人、行方不明者1人を出す大災害となりました。



これから台風の本格的なシーズンを迎えます。近年では局地的な集中豪雨が多発しており、このような水害が、「いつ」「どこ」で発生するかわかりません。過去の災害を忘れることなく、今一度、家族みんなで話し合い万全の備えをしておきましょう。

地震が発生したら、まず身の安全！

■屋内にいたら

① 身体を守る

揺れを感じたら、家具や棚などの倒れやすいものから離れ、テーブルや机などの下に隠れましょう。近くに隠れる場所がない場合は、座布団やクッションなどで頭を守りましょう。

② 火の始末

揺れがおさまったら台所やストーブなどの火元を確認しましょう。

③ けがの予防

割れたガラスなどを踏んではがをしないように、スリッパや靴を履いて行動しましょう。



④ 出口の確保

避難ができるように、玄関のドアや窓を開けましょう。ただし、あわてて外に飛び出すと瓦などの落下物だけがある恐れがありますので注意しましょう。

⑤ エレベーターは使わない

エレベーターのあるマンションなどから避難する場合、エレベーターは使わないようにしましょう。エレベーター内にいる場合は、全ての階のボタンを押し、止まった階で降りて避難しましょう。

■屋外にいたら

● 路上にいる場合

公園や空き地などの安全な場所に避難しましょう。この時、落下しそうな看板の下や、倒れる可能性のあるブロック塀・自動販売機など側は避けて通りましょう。

● 車を運転中の場合

急ブレーキはかけずに、ゆっくりと道路の左側に車を寄せてエンジンを切りましょう。カーラジオなどで状況を確認した後、キーをつけたまま、ロックせずに徒歩で避難しましょう。

● 電車に乗っていた場合

吊革や手すりにしっかりとつかまり、停車するのを待ちましょう。自分の判断で飛び降りたりせずに、乗務員の指示に従って行動しましょう。

避難するときには

- 1 電気のブレーカーを切り、ガスの元栓を締めましょう。
- 2 ドアや窓を閉め、鍵をかけておきましょう。
- 3 徒歩で避難しましょう。
- 4 非常持ち出し品は重要ですが、両手が見えぬようにリュックなどに入る範囲で準備しましょう。
- 5 頭を保護するため、ヘルメットや防災頭巾などを被りましょう。
- 6 衣類は、肌を防護するため、長袖、長ズボンとしましょう。
- 7 靴は、底が厚く、かかとの低い、歩きやすいものにしましょう。
- 8 家族や近所の人たちと協力しながら、できるだけ集まって行動しましょう。ただし、津波の危険性のある場所には避難しては、一人でも速やかに避難しましょう。
- 9 高齢者、身体の不自由な人など、助けを必要とする人がいたら、協力して避難しましょう。
- 10 デマに惑わされず、正しい情報に基づいて、落ち着いて行動しましょう。